
今宵共に

鷹羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今宵共に

【Nコード】

N4501V

【作者名】

鷹羅

【あらすじ】

時は20XX年、季は十五夜 秋。世は平和と言えるのか。

この世は人間界と魔界がある。妖怪は魔界から出ては、人間界を襲っていた。

――― ある日、

人間界にいる陰陽師の長が命を落とす前に人間界と魔界が繋がっている門“羅刹門”を消滅させた。長が消滅させたのは4つ。門は5

つ。残りの1つは、強力な妖力を持っている者しか通れなくなった。
その後、長は亡くなった。

時は過ぎ…

十五夜の夜、魔界に届いた妙な噂が一つ…
“人間界にて、半妖怪が生まれた”

交わった歯車は始まりの合図（前書き）

運命の歯車は狂った瞬間の出来事

交わった齒車は始まりの合図

出会いは…

そう、

あの春真っ盛り

桜が舞う季節

俺は、妖怪最強

名は、鬼恐

妖怪の世界から出て、人間界をフワフワ飛んでいた

何かおもしろい事はないか…

暇で暇で仕方がない

ここは一つ、人間を喰らうとするか

と、思い飛び回っていた

ん？

ふと、感じた

いい匂いがする

とても甘い匂い

その匂いを辿って、鬼恐は空を仰いだ

心地いい

人間界には何回も訪れたことはあるが、

こんなに心地いいのは初めてだ

何故、今まで気づかなかったのか？

匂いの元へたどり着いた

大きな和風の家だ（屋敷）

門をくぐって、庭のほうへ行った

『ん？』

縁側に

少女が眠っていた

最初は、死んでいるのかと思ったが

小さな小さな寝息をたてて眠っているのがわかった

いくら冬が過ぎたとはいえ、

こんな処で眠っていると風邪をひいてしまう

『おい、そんな処で寝てると風邪をひくぞ』

なーんてな

人間ごときが見えるわけがない

聞こえるわけがない

じゃあ、何故声をかけた？

自分でもわからない

『このガキ以外の気配はしないな…』

「ん…？だあれ？」

なっ！！？何を言っているのだ！？この餓鬼は！！

「ふわぁ…よく寝た」

目を擦りながらこちらをじっと見てくるではないか

こいつ…見えるのか？

「貴方はだあれ？」

見えているようだ

『俺は、鬼恐だ』

「ききょう？」

『鬼って書いて恐いって書いて鬼恐だ』

「私、透和。透明の透と和風の和だよ」

にこりと微笑む少女

ん？

こいつからいい匂いがするぞ

まさかこいつが…

『餓鬼、いくつだ？』

「餓鬼じゃないもん！！えっと…8つ！！」

まだまだ餓鬼じゃねえか

「鬼恐、鬼恐は強いのか？」

『当たり前だろ。俺様は妖怪最強だ』

「わぁ〜すごいすごい!!」

話は盛り上がっていく

『透和、お前は一人なのか?』

「うん。そうだよ」

何でそんな前向きなんだ

『淋しくないのか?』

「淋しく…ない」

悲しそうな顔をしている…

「ねえ、鬼恐…」

泣きそうな顔をしている…

「また来てくれる?」

俺は妖怪だ

人間の餓鬼など構っている程おしとやかではない

「鬼恐…」

でも何故だ

手が透和の頬を撫でてしまう

こんな…

愛しく思ってしまうのは初めてだ

『もう来ねえよ』

初めて出会った瞬間

俺の運命の齒車は違う齒車と交わった

あんなことを言ったが

毎日、

透和に会いに行った

透和は笑顔で迎えてくれた

妖怪の世界に戻っても

会いたくて会いたくて仕方がなくなってしまう

夜中に会いに行ったら

窓を開けて入れてくれた

布団に入れてくれた

温かった

いつ訪れても透和以外の気配はない

こいつはいつも一人だった

身内の者は餓鬼一人を置いて何をしているのだ？

聞きたくても

聞いたら

透和が悲しみそうだ

俺は透和が悲しむ顔を見たくはない

透和を悲しませたくはない

護ってやりたい

護りたい

そう誓った瞬間

俺は

透和の側にいた

透和の小さな体を

包み込むように

抱き締める

透和の気持ちを知る

唯一の方法

運命の赤い糸は

俺と透和を繋ぎ会わせた

交わった歯車は始まりの合図（後書き）

出会いは運命を変えました。

妖怪 鬼恐は人間 透和に禁断の恋をしたのでした。

恋愛物は初めて作りました・・・

はあああああ・・・

駄文で申し訳ありません!!

脱駄文目指して、これからも頑張ります!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4501v/>

今宵共に

2011年10月9日11時17分発行